



■公益財団法人 長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 長崎平和推進協会 県民表彰受賞
- 第61回バグウォッシュ会議世界大会 長崎(被爆体験講話・原爆写真展)
- 被爆70周年記念事業「長崎国際平和映画フォーラム2015」
- 米国・セントポール市で海外原爆展開催 ■ 第29回「外国人と長崎市民の集いと交流懇談会」開催
- 国連軍縮週間「市民のつどい」開催
- 第6期生平和案内人育成講座開始 ■ 第6回 体験記企画展「十代の原爆」開催
- TOPICS! (谷口稜暉氏が長崎新聞文化章を受章 ほか)



長崎国際平和映画フォーラム・高校生朗読劇「原子雲の下に生きて」の様子
(2015年11月8日・長崎原爆資料館ホール)



受賞する横瀬理事長（長崎県議会議場）

長崎平和推進協会 県民表彰受賞

当協会が、多年にわたり核兵器廃絶と世界平和の推進に取り組み、アジア諸国の若者との交流を通して相互理解を促進するなど、国際交流の推進に貢献したとして、平成27年県民表彰（優良団体）を受賞しました。

11月23日、長崎県議会議場で表彰式が行われ、協会を代表して横瀬理事長が表彰状を受け取りました。

理事長あいさつ

平成27年県民表彰の受賞にあたり、ごあいさつを申し上げます。

長崎平和推進協会が、県民表彰受賞という荣誉に浴しましたことは光栄の至りでございます。

これもひとえに、協会を支えていただいている被爆者の皆様、ボランティアの皆様、会員の皆様のご理解とご協力の賜物であり感謝に堪えません。

当協会が、原爆の悲惨さを後世に伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を目指すために、広く市民が参加した官民一体の団体として昭和58年2月に設立されました。

翌年4月には財団法人となり、平成23年からは、公益性の高い事業を行う公益財団法人の認定を受けて現在に至っています。

この間、被爆体験講話による平和学習、平和案内人などのボランティアガイドの育成と支援、日本とアジアの国々の若者との交流、講演会や平和イベント等の開催、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の運営など、様々な平和事業に取り組んでいます。

近年、核兵器をめぐる世界の情勢は、核兵器廃絶の機運が少しずつ高まっているものの具体的な進展は見られないまま推移しています。

また、民族間の紛争などにより、多くの犠牲者や難民が生み出されており、「核兵器廃絶と世界恒久平和の実現」という協会の基本理念とは大きな隔たりがあります。

私たちは、唯一の被爆国の市民として、これまでも増して平和活動に地道に取り組んでいく必要があります。

今回の受賞により、更に意を強くして、一日も早い「基本理念」の実現に向けて努力してまいりますので、今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人長崎平和推進協会理事長 横瀬昭幸

山脇佳朗氏 被爆体験講話

in 長崎原爆資料館

パグウォッシュ会議が長崎で開催されると知った時、私はあまり関心を持っていませんでした。

NPT再検討会議の結末に失望したばかりでしたし「パグウォッシュ会議」がどんな活動をやってきたのかということすら知らなかったからです。知っていたのはアインシュタインとラッセルの会談がきっかけで始まったという程度だったのです。

しかし「この会議で被爆体験を話してください」という依頼が舞い込んできた時、私の気持ちは一変しました。更に追悼平和祈念館でパグウォッシュ会議に関する小沼通二慶応大学名誉教授の解説を聞いて私は被爆体験の証言者としての責任の重さを改めて噛みしめました。この会議のメンバーは科学者として自国の政策に関わりなく個人の立場で議論をする。これまでもNPT再検討会議などへ核軍縮等について具体的な提案をしてきたことなど教えられたからです。世界の科学者にどう訴えるか、考えた末「原爆は科学者の助言によって開発されました。今度は科学者の力で、核兵器廃絶への道を開いてください」という言葉で結

ぼうと決めました。この言葉で話し終えた時、会場の科学者の方々が一斉に立ち上がり拍手を送ってくれました。私は下げた頭を上げることができませんでした。

パグウォッシュ会議が核廃絶について、これからどんな具体策を提案してくれるか、私は期待を込めて見守っていききたいと思っています。



継承部会員

山脇佳朗

第61回 パグウォッシュ会議世界大会 長崎 PUGWASH NAGASAKI 2015

全ての核兵器およびすべての戦争の廃絶を訴える科学者による国際会議・パグウォッシュ会議世界大会が長崎で初めて開催されました。

当協会では、継承部会員・山脇佳朗氏の被爆体験講話や写真資料調査部会による原爆写真展を行い、世界の科学者に原爆の悲惨さをとおして核兵器廃絶を訴えました。



原爆写真展 in

ヴィラ・オリンピカ伊王島

写真資料調査部会では、パグウォッシュ会議に参加している科学者に被爆の実相を伝えようと、パグウォッシュ会議の前に行われたヤングパグウォッシュ会議にも合わせて10月30日から11月5日までメイン会場近くの体育館（ヴィラ・オリンピカ伊王島）で特別原爆写真展を開催しました。

今回は世界の科学者向けの写真展ということで、85点余りの写真のキャプションを若手写真資料調査部会員がすべて英訳し、日本語のキャプションと併せて展示しました。また、海外の方に見てもらおうということで、建物の被害よりも人的被害の写真を多く選出しました。

各国の科学者が時間をかけて熱心に見学していました。

原爆の写真を初めて見た若手科学者は原爆の威力と悲惨さに驚愕していました。

この原爆写真展をとおして、核兵器廃絶を願う長崎の声を伝えることができたことを信じています。



写真資料調査部会

部会長 深堀好敏



ムを原爆資料館ホール、追悼平和祈念館交流ラウンジを会場として開催しました。

、さらに特別プログラムとして、写真展や朗読劇もあわせて行いました。



「もう碑は建たない」上映・ 元NBC記者 船山忠弘氏を 迎えてのパネルディスカッション

昭和50年の芸術祭大賞を受賞したNBC制作のドキュメンタリー「もう碑は建たない」は、被爆者のその後の生活を映した迫力ある映像で悲しみや怒り、生きていく人間の強さを教えてくれました。また、当協会副理事長でもある船山忠弘さんと稲塚監督の対談では、核兵器が二度と使用されてはならないという強い信念のもと被爆者の方々に取材したときのお話などを交え、被爆者の体験を後世に伝えることの重要性について意見を交わしました。



朗読劇「被爆から70年 …2015ナガサキの被爆体験記」 朗読劇「原子野に生きる」

朗読ボランティア「永遠（とわ）の会」と、昨年に引き続きお招きした無名塾の本郷弦さん、樋口泰子さんとの共演による朗読劇を上演しました。

今年は、映画フォーラムのプロデューサーでもある稲塚監督が新たに書き下ろした、長崎の被爆者の体験記をもとにした朗読劇と、福田須磨子さんの詩集を題材とした朗読劇の2本を上演しました。



高校生朗読劇 「原子雲の下に生きて」

高校生朗読劇「原子雲の下に生きて」を上演しました。

これも稲塚監督が書き下ろした、永井隆博士編の同名の体験記集を題材とした朗読劇で、市内の高校生（放送部）19人が出演しました。指導には、永遠の会の指導もお願いしている天野紘さんがあたりました。高校生にとっては、学校の試験や放送コンテストなど厳しいスケジュールの中での挑戦でしたが、レベルの高い感動を呼ぶ朗読劇になりました。

また、「体験談を直接聞くことができ、よかったです」、「戦争は悲惨で恐ろしいものだど分かりました」、「平和に暮らせるよう頑張りたいと思います」など、多くの感想が寄せられました。



平和の大切さを訴える原田さんの声は米国・セントポール市の多くの方々に確実に届きました。

被爆体験講話は海外原爆展の会場であるランドマークセンターをはじめ、キャピトル・ヒル・マグネット・スクール（小・中一貫校）、メトロポリタン州立大学、ミネソタ大学、ハムリン大学の5会場で計8回行い、小・中学生、大学生、一般と幅広い年齢層の方に聞いていただきました。

原田さんは、戦時中の日本の様子が分かるように、空襲警報のサイレンを鳴らしたり、防空頭巾・モンペ・救急袋を身に付けたり、被爆時の様子を描いた絵を見せたりしながら話をしました。聴講者は原田さんの話熱心に耳を傾け、中には涙ぐむ方もいました。

講話終了後、「放射線の影響は今も残っているのでしょうか」、「語り部を始めたきっかけは何でしょうか」など、様々な質問があり、原田さんは、一つひとつ、丁寧に答えていました。



被爆体験講話者
原田美智子さん

8月22日から11月28日まで国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館主催の海外原爆展を開催しました。9月には継承部会員の原田美智子さんがセントポール市で被爆体験を語りました。

米国・セントポール市で海外原爆展開催

被爆 70 周年記念事業 長崎国際平和映画フォーラム 2015

11月6日～8日、長崎国際平和映画フォーラム
計8本の映画とドキュメンタリー番組を上映し
期間中、延べ1,200人の来場者がありました。

上映した映画・ ドキュメンタリー作品

「長崎の子」
「仲代達矢「役者」を生きる」
「二重被爆～語り部・山口彊の遺言」
「東京原爆」
「黒い雨」
「若い人」
「ヒロシマの校庭から届いた絵」
「生きていてよかった」

NBC「もう碑は建たない」
NBC「神と原爆」
NCC「私は原爆を伝えたかった」
NBC「静かな声」
KTN「沈黙のマリア」



報道写真家 浜口タカシ展

60年にわたり報道写真家として活躍する浜口タカシさんが昭和30年代から長崎を訪れ撮影した写真(13点)や、故福田須磨子さんの直筆の絵画を展示しました。

オープニングには浜口さんをお迎えて、福田須磨子さんや故片岡ツヨさんの写真を撮影した時のエピソードなどをお聞きました。

写真展は6日～15日まで開催され、祈念館を訪れる人に原爆が人々に何をもたらしたかを静かに語ってくれました。



朗読+紙芝居「二重被爆」

長崎市立小ヶ倉中学校の生徒10人と二重被爆者・山口彊さんの孫である原田小鈴さんが共演して、山口彊さんをテーマにした朗読と紙芝居を披露しました。

出演した小ヶ倉中学校の生徒は、日ごろより平和活動に熱心に取り組んでおり、今回も一生懸命練習に励み本番に臨みました。

このような被爆三世と中学生による朗読や紙芝居が、被爆の継承の新しい広がりをみせるのではないかと期待しています。



ベトナム出身のお二人は、アオザイという民族衣装を着て参加してくれました。総じてスピーカーのみなさんは「長崎の方はとても親切、街もとても奇麗です」と褒めてください。参加した皆さんもとてもうれしかったと思います。意見交換会では参加者から積極的に質問が出されました。その後の懇談会でも会話が弾み、和やかな雰囲気の中でそれぞれが交流を深めました。

11月21日、長崎原爆資料館平和学習室で国際交流部会主催による「外国人と長崎市民の集いと交流懇談会」が開催されました。長崎在住の中国、ベトナム(2人)、バンラデシユ、スロバキアの女性5人がスピーカーになり母国の文化や伝統の紹介、長崎の印象を語りました。



「第29回 外国人と長崎市民の集いと 交流懇談会」開催

国連軍縮週間 「市民のつどい」開催

平成27年10月24日、国連軍縮週間に恒例の「市民のつどい」を原爆資料館前階段下広場で開催しました。
 天気にも恵まれ、多くの方々を訪れました。被爆70年という節目の年に、それぞれ平和について考えていただけたのではないのでしょうか。



たくさんの子も達が当協会継承部会員と話をしながら、環境に優しい風船に、思い思いに平和へのメッセージや絵を書きました。たくさんの方が空へ飛んでいきました。



長崎県地域婦人団体連絡協議会の皆さんと活水平高生が戦時中に食べていたすいとんや野草の天ぷらを作り、食べていただきました。子ども達は今の食事とは全く違うことに驚いていました。



訪れた多くの方が平和への祈りを込めた色とりどりの折り鶴を折り、千羽鶴へ仕立てました。外国人観光客も当協会国際交流部会員に教わりながら真剣に折り鶴を折っていました。



今年も大好評で、子ども達の行列はとぎれることがありませんでした。一緒に訪れた年配者は、懐かしい綿菓子の味に平和の大切さを噛みしめていました。



当協会音楽部会のミニコンサートでは、ギターやアコーディオンを伴奏として平和の曲を演奏しました。多くの方が足を止めて聴き入り、一緒に合唱する場面もありました。



当協会写真資料調査部会が原爆被災の実相を伝える数十点の写真パネルやパノラマ写真を展示しました。多くの方が爆心地方向に目を向けて復興した長崎の街並みに思いをはせていました。

平和大行進で放たれた風船と長崎を最後の被爆地とする誓いの火

第6期生 平和案内人育成講座

はじまる!!



NAGASAKI PEACE GUIDE

申込者の応募動機…

- ★被爆者が段々と少なくなってきた中、被爆2世として、原爆の実相を伝え続けたいと思った。
- ★私自身、戦争経験はもろろありません。ただ私にも何かできることはないかとずっと思っていました。原爆によって被爆された方々の体験が生かされずにこのまま風化していくのを黙って見ているわけにはいきません。
- ★原爆被爆を通して、戦争の悲惨さやむごさを伝え、ナガサキから平和を発信したい。
- ★被爆体験講話を聞く機会があり、その重要性をあらためて実感しています。被爆の実相を後世に伝えていくことについて、微力ながら何か手伝いができれば、と思い平和案内人に申し込みました。



船山副理事長



末永継承部会長

長崎原爆資料館や国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、平和公園周辺の被爆建造物等の案内を行う「平和案内人」の第6期生育成講座が始まりました。今回は、19歳から76歳までの32人に応募いただきました。12月5日の開講式では、船山忠弘副理事長より「被爆者に代わって被爆の実相を伝えていくため、自信を持って期待に応えてほしい」とのあいさつがあり、その後末永浩継承部会長による被爆体験講話を行いました。

平成28年3月まで全15回の専門家による講義やガイド実習などの講座を通して、長崎原爆への理解と核兵器廃絶の思いを深め、5月から活動を開始する予定です。

第6回 体験記企画展 「十代の原爆」 開催

入場
無料



国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館では、原爆で多くの方が犠牲になった事実を伝えるため、体験記企画展を開催しています。

第6回体験記企画展では「十代の原爆」と題し、祈念館に寄せられた手記の中から、若者が被爆直後の惨状を克明に記した体験記5編と、厚生省（当時）が収集した被爆体験記集の中から、若者の手記約100編を、関連する資料や写真と共に展示します。

体験記をとおり、多感な十代の若者らが体験した戦争や原爆の悲惨さを感じていただければと思います。

ご来館お待ちしております。

期 間：平成28年1月20日(水)～6月30日(木)
会 場：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
地下2階 遺影・手記閲覧室

開館時間：8:30～17:30(5月～8月は18:30まで)

すみてる 谷口稜暉氏が長崎新聞文化章を受章

長年、当協会の理事を務めていただくとともに継承部会員として被爆体験講話を続けておられる谷口稜暉氏が、2015年度の長崎新聞文化章（平和・福祉部門）を受章されました。

谷口氏は、16歳の時、爆心地から約1.8kmの路上で被爆されました。背中全面に大火傷を負いましたが、奇跡的に一命は取り留めました。しかし、約1年9カ月うつぶせの状態を続けるなど、壮絶な体験をされています。

その後も、入院や治療を繰り返しながら、国内外において、被爆者援護や核兵器廃絶の運動に取り組んでこられました。現在、(一財)長崎原爆被災者協議会の会長、日本原水爆被害者団体協議会の代表委員も務められています。

今回、このような谷口氏の長年の功績が憲章されたものであり、当協会として、今回の受章を心からお喜びするとともに、谷口氏の今後末永いご活躍を祈念申し上げます。

— 書籍販売コーナー新刊・新商品のご案内 —

ピーストークX

くり返すまい ナガサキの体験 (第2巻)



900円(税込)

平成21年から継承部会員として活動を始めた18人の被爆体験記集。ピーストークVIIIの続編です。
平成27年12月24日販売開始。

オリジナル缶バッジ

150円(税込)

「MAY THE CIRCLE OF PEACE GROW!!」(平和の輪を広げよう!!)というメッセージがこめられた缶バッジです。



世界の核弾頭の数 (2015年6月1日現在)

ロシア	米国	フランス	中国	英国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合計
~7,500	~7,200	300	250	215	80	100~120	90~110	<10	~15,700

長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

会費納入のお願い
当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。今年度まだ会費を納めていない方は、何卒趣旨をご理解いただき、先にお送りしている払込票により最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。

寄付者紹介

- ◎匿名 六千円
◎匿名 二万円
◎池田 松義 一万円
◎川上 正徳 一万円
◎早崎 猪之助 一万円
◎北城 祐二 一万四千元
◎2015 NAGASAKI 平和を願うコンサート(京都) 三万円
◎曹洞宗 智満寺 五万円
◎岡田 郁代 (敬称略) 二十万円
◎曹洞宗 智満寺 五万円

ありがとうございます
（平成27年12月16日現在）

- ◎維持会員 1,097人
◎賛助会員 143人
◎学生会員 11人

会員数報告

賛助会員(団体・法人)の一覧は協会ホームページに掲載しています。ご支援・ご協力誠にありがとうございます。